



ドイツ留学されていた時の研究所にて606号発見前後



秦記念館(益田市美都町都茂)



パウル・エールリッヒ博士と秦佐八郎博士

秦佐八郎博士の一生
美都町出身の秦佐八郎博士は、ノーベル賞の候補者にもなった郷土の偉人です。当時は不治の病とされた「梅毒」を治すサルバルサン606号を発見し、製造に成功しました。
裕福な造り酒屋「笹利」を営む山根道恭とヒナの子で十四人兄弟の八男として生まれた佐八郎は、十四歳の時に姻戚である秦家に養子で迎えられました。代々医師の家系であった秦家には、当時一人娘しかいなかったが為に兄弟の中で成績が優秀であった佐八郎に白羽の矢がたったのです。
その際、秦家より「岡山で勉強が出来る」と言われたのも、少年であった佐八郎が養子に行く決心をした理由の一つとなりました。養子になった佐八郎は、私立岡山薬学校(現関西高等学校)を卒業後、第三高等中学校医学部(現岡山大学医学部)に入学します。高等中学校では大変優秀で他の学生や教師からも一目置かれる存在でした。

- 秦佐八郎博士の一生・・・表紙・2ページ
- 町内施設紹介 蓬の会・・・3ページ
- ターのおばちゃんのおいし〜し〜し〜・・・3ページ
- 美都町内イベント情報・・・4ページ
- 退任の挨拶・・・4ページ

★ **美都町内イベント情報** ★

- ★ 4月12日(日) 金谷城山桜まつり(会場:金谷集会所周辺) 9時30分~
- ★ 4月29日(水・祝) 田舎ぐらしを楽しむ会(会場:妙蓮寺) 10時~
- ★ 5月 3日(日・祝) 美都温泉まつり(会場:美都温泉湯元館周辺)
- ★ 5月 4日(月・祝) 神楽魂(会場:ふれあいホールみと) 開演10時

※「益田市」のホームページもご覧ください。
※都合により、やむをえず変更または中止することがあります。ご了承ください。

編集・発行

益田市美都総合支所

住民福祉課

〒六九八〇二〇三

益田市美都町

一八〇三二

☎

〇八五五

五二二三

FAX

〇八五五

五二二九〇

退任のあいさつ
平成十六年十一月に三市町が合併し、十年が経過しました。
合併により、旧美都町・旧匹見町の特別職が失職することによる住民不安の解消を図ることを目的に設置された顧問制度は、合併調整項目の大部分が整理できたこと、合併後関係各位のご理解とご協力のもと、住民の大きな不安は一定程度解消されつつあるとして、条例及び合併協議会での設置期間の確認のとおり、平成二十七年三月末日をもって廃止することになりました。
合併当時二六九九人あった人口は、十年間で五四九人も減少し、二二五〇人となり、少子高齢化が進んでいます。今後とも減少の予測がされており、将来的な不安もあります。我が町の祖先・先輩諸氏が築き上げて守ってこられた地域を、皆で何とかして維持継続し、次世代に引き継がなくてはならないと思います。

連絡先 美都総合支所 住民福祉課
☎(〇八五五)五二二三二一

ふるさと会員の登録や、当情報誌についてのご意見やご要望、または、紹介したいモノや人グループなどがございましたら是非お知らせください。
なお、ふるさと会員の登録は無料です。お問合せ等は左記電話番号またはメールアドレス junin-m@city.masuda.lg.jp まで 担当:住民福祉課



益田市顧問 大石康人

益田市が進めております人口拡大計画・国や県の地方創生戦略等に大いなる期待をされるとともに、事業をうまく活用し安心して住み続けることができるよう、地域の皆が積極的に参画して知恵を結集し、元気にするための取組みが求められています。
これからは一住民として、出来る限りのお手伝いをして参る所存でございます。地域の方々の益々のご健勝とご多幸、ご活躍を心から祈念し、退任の挨拶とします。誠にありがとうございました。

よもぎ 蓬の会

澄みきった空気、清らかな水の山里で育ったよもぎを摘み加工して団子の皮に練り込んだ、よもぎたっぷりのお焼き。中には甘いあんこが詰まっています。一口食べるとよもぎの香りが口一杯に広がり、懐かしい昔を思い出させてくれます。それは、祖母の味であり、母の味、そしてふるさとの味でもあります。

私たち蓬の会では、平成18年から地域の食文化を受け継いでいこうと、先輩方から食材の加工や保存方法を教わりました。その中でも、お焼きを商品化し特産品にしようと、旧二川保育所の調理室を改修し、平成26年12月、加工所をスタートしました。

現在会員は12名で、一つ一つ丁寧に心を込めて作り上げています。

益田市美都町宇津川口383-1 代表 潮 良子



らっきょう漬けの作り方

“らっきょう”は、掘ったら、できるだけ早く根と茎を切って洗い芽止めをせにゃあ、すぐに芽がでてくるけえね。

◎材料 らっきょう…約3kg らっきょう酢…約1升

◎作り方

- ① “らっきょう”を収穫したら、できるだけ早く根と茎を切る。そして丁寧に洗い、ザルに移し水気をきっておく。
- ② 鍋にたっぷりのお湯を沸かし、沸騰しているお湯の中に、適量の“らっきょう”をザルごと入れ、揺らしながら5秒間つけ、お湯から上げて流水で素早く冷ます。
- ③ 冷めたら網の袋に入れて、一晩水に浸ける。
- ④ 翌日、水から上げ、しっかり水を切った“らっきょう”を容器に入れ、らっきょう酢をいれる。1ヶ月くらい経つと、おいしくいただくことができる。市販のらっきょう酢だと簡単に出来る。

◎保存方法 冷蔵所で漬けておくと1年は保存できる。

おばちゃんらのらっきょう酢（5升3合）

- ① 5倍酢・・・720ml（1本）
- ② 砂糖・・・6kg
- ③ 塩・・・450g
- ④ 水・・・7L（35カップ）
- ⑤ みりん・・・600ml（3カップ）

鍋に入れ、沸騰させて、冷ましたら出来上がり。

らっきょう酢は一度にたくさん作るより、丁度いいぐらいの量にして作るといいよ。



寒中とはいえ雪もない穏やかな日、ダーのおばちゃん(板井川若杉 土佐キクエさん)のお宅を訪ねました。今回は「らっきょう漬け」の作り方を教えていただきました。おばちゃんのお宅では、自家製のらっきょう酢で一度にたくさん漬けるそうです。作り方を教わった後は、炬燵にあたりおばちゃんのかける絵手紙を見せていただきました。



『秦佐八郎博士』顕彰事業のあゆみ
平成六年、秦博士の生まれ育った生家山根家の隣に、「秦記念館」を建設しました。記念館には、サルバルサンのアンブル（薬の入ったガラス製の容器）や、エールリッヒ博士からの指示メモの写し等の貴重な資料や、秦博士の人柄にふれることのできる展示物があります。最近では、東京大学大学院准教授が研究資料収集のため、来館されました。また、ドイツのベルリン医学史博物館で「パウエル・エールリッヒ博士と秦佐八郎博士の医学日独関係交流」の発表のための資料提供を行っています。秦博士について広く知っていただくために「秦佐八郎小伝」や「秦佐八郎伝」まんが「世紀の医学者 秦佐八郎」も販売しています。

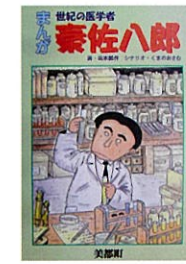
一八九八（明治三十一）年、二十五歳で東京の私立伝染病研究所に入り、日本細菌学の祖と言われている北里柴三郎博士の指導を受け、細菌学の研究に打ち込みました。恐ろしい伝染病ペストの治療では、自身が感染する危険もある中、細心の注意を払い治療を続け、人々を救いました。
一九〇七（明治四十）年、ドイツのベルリンであった万国衛生学会で、北里柴三郎博士とともにコッホ博士に学んだエールリッヒ博士に出会い「梅毒」の治療薬の研究を始めました。何百回という実験を繰り返し、気の遠くなるような研究を重ね、一九一〇（明治四十三年）年、ついに世界最初の化学療法剤である特效薬サルバルサン（エールリッヒ・秦606）が完成しました。



秦佐八郎博士没後70周年記念事業



胸像除幕式 秦 茂樹氏(孫)



まんが 秦佐八郎

顕彰委員会事務局 市教育委員会 社会教育課
秦記念館施設管理 美都総合支所 住民福祉課

平成二十年十一月には、秦博士の没後七〇年にあたることから、博士の生き方・業績・郷土愛・平和への思いを多くの皆さまに伝えることを目的として、二日間にわたり、没後70周年記念事業が開催されました。
この事業を機に、昭和三十九年に生誕九十年顕彰事業として建立された博士の胸像は、秦記念館の横に移転されました。
本年二月、三月には、秦佐八郎博士顕彰委員会が主催し、郷土の偉人「秦佐八郎博士」を学ぶ、連続講座を開催しています。
益田市では、今後も「秦佐八郎博士」の功績を後世に伝え、より多くの皆さまに知っていただく為に引き続き顕彰事業に取り組みしていきます。